

建築学科（令和3年度後期）

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
A212007 環境デザインⅡ	省エネに配慮した住宅の計画方法について理解できる。地域の気候に配慮した建築計画の工夫について理解できる。自然エネルギー利用の基礎について理解できる。本講義は、日照と日影、音環境、換気など環境デザインに求められる基礎的事項の習得、環境問題の理解、サステナブルデザインに関する価値観の醸成を目的とします。	環境工学の基礎的な内容について取り組んだ。計算問題などをふくむ論理的な内容もあることから、積極的に取り組んでくれる学生がいる一方で、難しく感じている学生も一定数存在するものと思われる。エコ住宅の提案に関する課題では、様々な観点から積極的な提案があった。	授業評価 4.4 (4.4、4.2、4.3、4.4、4.4) 回収率 72.4% 計算問題、図を読み取って算定する課題などについては、積極的に取り組んでくれる学生がいる一方で、難しく感じている学生も一定数存在した。よりわかりやすい説明やフォローなどを心掛けたい。
A212023 木造設計演習	木造住宅の設計技法の習得を目指します。構法的な基礎知識を得るとともに、図面表現方法を習得し、模型制作を通して立体的な理解を深めます。伝統木造住宅の意匠や地域素材の活用方法、左官など伝統的な技術についてもレクチャーや調べ学習を行います。木造構法の基礎をふまえ、木造住宅の簡単な設計を行うことができる。	BIM を用いた木造軸組みモデルのモデリングを行った。前期の木工制作課題につづき、建物全体のつくりを解説し、入力作業を行った。学生の取り組みの意識は高く、積極的に取り組んでいる様子が伺えた。BIM が苦手な学生にとっては、60分授業で説明が行き届かない部分もあり、取り組みにくい部分もあった。	授業評価 4.4 (4.7、4.2、4.4、4.4、4.5) 回収率 65.2% BIM での軸組みの入力は、模型を制作しなくとも構造の全体を把握でき、教育的な効果は大きいと感じた。一方、コンピューターでの入力方法の理解がしっかりこない学生には、作業がすすまない傾向がみられた。遅れがちな学生へのフォローを SA などを活用して行ってゆきたい。
A212027 卒業研究Ⅱ	建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して薦める授業です。卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることを目的とします。授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	指導に従って手際よく研究をすすめられる学生の一方で、テーマや方向性などをまとめることが困難であったり、作業進行が遅い学生も存在した。授業時間外も含め適宜指導を行いながら最終的なとりまとめが行えるようサポートしたい。
A211007 環境デザインⅠ（臨時開口）	省エネや環境負荷低減に配慮した建築や住まいの設計に求められる理論について講述し、これを理解するとともに、ディスカッションや演習を通して実践力を高めることを目的とします。	遠隔に準ずる授業として、動画視聴とレポート課題等を課した。	1名が履修したが、声掛けなどを行ったものの、課題への取り組みがなかった。
GA21221 建築学特別研究 D	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。

<p>G212004 特別支援教育</p>	<p>目標 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒が授業において学習活動に参加し、生きる力を身につけることができるよう支援していくための知識や組織として動くことの大切さを学ぶ。 教育効果 特別支援教育の概要をつかみ、特別な支援の必要な幼児児童生徒に対して必要な障がい理解と指導に必要な「個別的教育支援計画」「自立活動」などについて学ぶ。また、特別支援教育は「チーム学校」として対応するため、組織や連携についても学んでいく。</p>	<p>コロナ対応は終了したが、感染予防のため窓を開け、実施した。緊急時のことも考え、授業資料は全てユニバにあげるようにした。初めて触れる言葉や考え方、障がいの特性などは、実際に見たり聞いたりしたことがないとなじみが薄いと思われる。4年生になると実際の特別支援学校の見学等も計画しているが、この授業の中で、資料だけで説明していくことは難しいのかもしれない。</p>	<p>評価基準は4.52、回収率は71.4%であった。設問2と3の評価が低かった。障がいの発信している動画などを多く取り入れ、身近に触れることのない障害種についても分かりやすくできるようにしていきたい。特別支援教育は今や教育での必須事項となっている。日本語を母国語としない児童生徒、不登校など、生きることの素晴らしさ、健常であることのありがたさもわかる内容を今回以上に多く取り入れるようにしていきたい。インクルーシブでユニバーサルな社会のために役立つ科目であることもアピールしていきたい。</p>
<p>A212001 インテリアエレメント</p>	<p>達成目標 ①インテリアを計画するために必要となる基本事項について理解ができ、かつ、それらの知識を用いて、実際のインテリア空間を評価できる。 ②インテリアを計画するために必要となる基本的な事項について学習するとともに、人の生活におけるインテリア空間の重要性や計画の方法について学びます。</p>	<p>PPT を中心に事例作品により、建築計画及びデザインの仕組みを解説できた。</p>	<p>授業評価 4.388(4.5、4.2、4.4、4.4、4.4) 回収率 69.6% 科目 GPA2.71 達成目標に対する授業評価を高めるには、少人数による対応なども考えていきたい。</p>
<p>A212016 現代建築論</p>	<p>達成目標 ①建築における、デザイン、形態、装飾などに対する知識を広げること ②設計製図でのアイデアを考える手がかりやプロセスを見つけ出すこと</p>	<p>PPT を中心に事例作品により建築計画及びデザインの仕組みを解説と配布プリントを使い進めた。</p>	<p>授業評価 67.2(4.7、4.6、4.6、4.6、4.5) 回収率 82.5% 科目 GPA2.41 達成目標に対する授業評価を高めるには、少人数による対応なども考えていきたい。</p>
<p>A212021 建築設計演習IV</p>	<p>達成目標 ①立地環境や建物の構造を理解して、設計図面(配置図、平面図、立面図、断面図)作成できる。建築のイメージを表現できる手法と伝えられることを習得できる。 ②中規模施設を設計する構想力をつけることを目的とします。 ③建築物の外部(エクステリア)・内部(インテリア)の生活シーンをイメージし、さらに周辺環境とのかかわりを含めて検討するなどの空間設計力、構想した建築空間をより分かりやすく相手に伝えるための図面表現力も養います。</p>	<p>課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。</p>	<p>授業評価 4.314(4.6、3.7、4.3、4.5、4.5) 回収率 66.7% 科目 GPA2.48 達成目標に対する授業評価を高めるには、少人数による対応なども考えていきたい。</p>

<p>A212030 卒業研究Ⅱ</p>	<p>達成目標 ①授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 ②建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。 ③所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。</p>	<p>課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となった。</p>	<p>授業評価 4,95(5.0、5.0、4,8、5.0、5.0) 回収率 57,1% 科目 GPA4,00</p> <p>達成目標に対する授業評価を高めるには、個人による対応などを考えていきたい。</p>
<p>A212011 建築施工</p>	<p>達成目標 建築物の構築に関わる人について知る。 各種の工法の特徴を理解する。 建築物を構築するための計画を練る。</p>	<p>現場施工について教科書のみでは理解が難しいと考え、適切なDVDを探し、画像を見ながら確認しつつ授業を進めた。 教科書も内容がわかりやすいものに変更し、予習復習がしやすいようにしメリハリをつけた講義を心がけた。 ただ予習復習の方法の指導が充分できず、授業時間の不足もあり、説明が充分できなかった箇所も多かったと反省している。</p>	<p>授業評価 4.378 (4.5、4.3、4.3、4.4、4.4) 回収率 65.3% 科目 GPA1.93 (F以外 2.48)</p> <p>授業時間も充分とれるようになったため、学生の理解度確認しながら、わかりやすい映像を使いながら丁寧な説明をしていきたいと思う。</p>
<p>A212012 建築設計演習Ⅱ</p>	<p>達成目標 店舗空間をもつ集合住宅の設計を計画することができる。 周辺環境や地域と建築との関わりについて考えることができる。 設計した計画を図面で表現することができる。</p>	<p>学生による進み具合が異なり、適切なタイミングで指導ができなかった場合があったと反省している。 BIMでの最終作成時、操作手順などの質問も多くあり、BIMの知識を高める必要があると感じた。</p>	<p>授業評価 4.41(4.5、4,2,4.4、4.5、4.4) 回収率 64,2%</p> <p>今後は学生の進め方や様子を迅速に把握できるような対応をしていきたいと思う。</p>
<p>L212031 キャリアデザインⅡ</p>	<p>達成目標 自己の将来についてのビジョンが描けるようになる。 自分軸に基づくキャリアプランニングができる。 就職活動に必要な能力や技術を身につけることができる</p>	<p>教員3人による各学科に分かれての授業となった。 学科により学生の温度差があり授業内容を個別に変更するなどの対応が必要だった。 当初 ZOOM での3学科合同授業だったが、学生からの不満意見が多く 即座に対面授業に切り替えた。 当初から対面授業での対応を考えるべきだった。 授業内では面談や履歴書作成ができない学生もいた事から、学生の要望にあわせて補習授業を行ったが、授業内での十分な対応ができればよかったと考えている。</p>	<p>授業評価 4.562 (4.6、4.5、4.5、4.6、4.6) 回収率 68,8% 科目 GPA3.35</p> <p>初めての授業内容であり学生の様子を確認しながら授業を進めていくこととした。本年度は社会人になってからの事例なども入れ、充実した社会生活を送れる準備の授業内容も盛り込んでいけたらと考えている。</p>

<p>A212033 卒業研究Ⅱ</p>	<p>目標 ・生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。 ・研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 ・設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。</p>	<p>学生が計画的に論文作成ができる指導が不足し、後半に指導内容が偏ってしまった。 学生が計画的に卒業論文・製作に取り組めるような管理を今後は考えたいと思う。 2人の学生が卒論以外の論文にも挑戦し、書き上げることができ、論文分析の能力も高めることができたと感じている。</p>	<p>授業評価 5.00(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 42.9% 科目 GPA3.29</p> <p>学生と共に実験やアンケートを実施し、集計方法などについて細かな指導ができ、学生の喜びが感じられた。 今後も論文作成の過程に時間をかけ、討論しながら進めていきたいと思う。</p>
<p>A212003 基礎製図Ⅱ</p>	<p>目標 建築の初学者が住宅や小店舗といった身近な事例の計画・設計を通して、建築を設計・製図することの楽しさを知り興味を深めることを目的としています。 教育効果 建築図面の記号や表記方法を理解できる。基本的な建築図面の読み書きができる。基本的な住宅建築の設計・製図を行うことができる。</p>	<p>2グループに分かれ、「住宅の設計」「カフェ空間の設計」の2課題を行い、「カフェ空間の設計」を担当した。 「カフェ空間の設計」では、カフェ空間を利用する人や、周辺環境との繋がりについて考えることができた。</p>	<p>授業評価 4.3(4.5、4.1、4.2、4.4、4.4) 回収率 73.3% 科目 GPA2.80</p> <p>周辺模型の制作に時間をかけすぎ、本来考えるべき内容が検討されていない学生がみられた。学生一人ひとりの能力や、進捗状況に応じた指導が必要である。</p>
<p>A212004 建築ものづくり広場</p>	<p>目標 建築や生活をものづくりの視点から見つめなおし、空間づくりに求められるアイテムを構想して製作を行います。自由な着想からこれを展開させる力を身に付け、機材を用いて制作を行うプロセスについて体験的に理解します。 教育効果 自らものづくりを行うためにどのような、技術、道具があるのかについて理解できる。自由な発想で、ものづくりを行うことができる。ものづくりを行う上での安全配慮について理解できる。</p>	<p>3グループに分かれ、「木製ペン立て」「模型製作」「スケッチ」の3課題を行い、「木製ペン立て」の制作を担当した。 「木製ペン立て」では、技術、道具、安全を理解し、木工機械を用いて制作を行った。素材の特性を把握するとともに、機能性、強度、デザインがそれぞれ成立するつくりや形態を考え、デザインの意味を深めることができた。</p>	<p>授業評価 4.4(4.5、4.3、4.3、4.5、4.5) 回収率 69.7% 科目 GPA2.25</p> <p>木工機械や実習棟の収容人数に制限があるため、デザインが決定した学生は、随時制作に取りかかるように促していくが必要である。</p>
<p>A212012 建築設計演習Ⅱ</p>	<p>目標 「周辺環境」・「住まい」・「コミュニティ」の関係について考察し、建築設計に反映できることを目的とします。また、構想した空間を相手に伝えるための図面表現力も養います。 教育効果 店舗空間をもつ集合住宅の設計を計画することができる。周辺環境や地域と建築との関わりについて考えることができる。設計した計画を図面で表現することができる。</p>	<p>旧藤川宿東海道沿いの敷地に店舗付き学生専用共同住宅を設計する課題を、教員4名により4グループに分かれ実施した。学生一人ひとりの能力や、進捗状況に応じて指導を行い、周辺環境や地域と建築、人と人との関係性について考えることができた。</p>	<p>授業評価 4.4(4.5、4.2、4.4、4.5、4.4) 回収率 64.2% 科目 GPA2.26</p> <p>作品の制作にあたり、手描きの学生と三次元 CAD を使用した学生で、成果物の表現や形式が異なり評価に影響があった。提出物の形式を再度検討する必要がある。</p>

<p>A211039 卒業研究Ⅱ</p>	<p>目標 卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることがを目的とします。 教育効果 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>ゼミ生全員が卒業設計に取り組み、それぞれのテーマに至った背景とコンセプトを整理し、建築の設計を行い、その内容を説明することができた。ゼミでは、自身の設計だけでなく、他学生の設計についても発言する機会を設け、自分の意見が言えるように促した。</p>	<p>授業評価 5.0(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 42.9% 科目 GPA3.29</p> <p>自分の意見を伝えられるようになってきたが、議論には至っていない。学生自らが主体的に考え、学生同士でも積極的にディスカッションでできる環境を整えていきたい。</p>
<p>GA21209 建築学ゼミナール B</p>	<p>目標 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をおおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 教育効果 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の設計提案をすることができる。</p>	<p>修士設計に繋がる研究と位置づけ、関連する資料の収集や事例調査、分析を行い、設計の展開段階の成果を含めた研究報告書にまとめ、プレゼンテーションを行うことができた。</p>	<p>大学院 2 年次の修士設計へスムーズに移行するため、事例調査、分析において、所要スペースなどの設計条件まで設定できるように促していく必要がある。</p>
<p>GA21225 建築学特別研究 D</p>	<p>目的 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をおおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 教育効果 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の設計提案をすることができる。</p>	<p>修士設計に至った経緯や根拠を整理し、その成果が社会造形に及ぼす影響や効果についての展望を含めて総括を行い、設計の完成段階の成果を最終研究報告書にまとめ、プレゼンテーションを行うことができた。</p>	<p>計画敷地の高低差が複雑であったり、CGによる表現方法にこだわりすぎたこともあり、作品の提出がぎりぎりとなった。提出期限をこまめに設定し、スケジュール管理をしていく必要がある。</p>
<p>A212010 建築構造のしくみ</p>	<p>建築物の構造システム・材料種別を理解できる。 各種構造物の構造計画の手順を理解し、構造設計ができる。</p>	<p>教室での蜜回避を目的として履修者を 2 クラスに分けて対面授業と遠隔授業を交互に行うハイブリット型の授業を実施した。動画およびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。遠隔授業回はスライド動画をもちいて講義を中心に実施し、対面授業回は問題の解説を中心に行った。学生との質疑応答を対面授業回で実施することに学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。</p>	<p>授業評価(4.5、4.4、4.5、4.5、4.6) 回収率(63.4%) 科目 GPA3.09</p> <p>学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。</p>
<p>A212036 卒業研究Ⅱ</p>	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>授業の性格上、個別指導となる。全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するとともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。</p>	<p>授業評価 履修者人数の関係上、非公表</p> <p>研究の進行および達成度にばらつきが見られた。遠隔授業での研究指導方法を再考する必要がある。</p>

A212005 力学入門	基本的な静定構造物（片持ち梁、単純梁、静定ラーメン構造物、静定トラス構造物など）の反力と応力（軸力、せん断力、モーメント）を算定することができる。	動画およびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。学生との質疑応答を対面授業回で実施することに学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	授業評価(4.5、4.3、4.4、4.5、4.5) 回収率(71.16%) 科目 GPA2.89 学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。
GA21215 構造安全論	1. 構造物の安全性に大きな影響を及ぼす地震、台風などが建物に及ぼす影響について理解し、説明ができること。 2. 構造設計に対して適用できること。	構造設計や各種構造形式の規定や安全性に関して動画・スライドなどを利用して授業を行った。様々な知識を積み重ねるだけではなく、授業内での演習課題を実施した。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表 専門領域の科目ではあったが、専門以外の学生も履修していたため、基礎的な事項が中心となった。
A212020 建築実験	1) 実験により実構造物の挙動を体感し、崩壊性状を考えることにより、洞察力を涵養する。 2) レポートを作成することで論理的思考ができる。	本講義は1) 理論的講義, 2) 実験, 3) レポート作成で構成されます。1) および3) は対面式の講義で, 2) は実験室で試験体または載荷・測定装置の準備, 載荷実験を行います。従来の一面的な実験ではなく、学生自身がディスカッションを行いながら、実験方法から検討する PBL 形式の授業としています。	授業評価：4.5 (4.6、4.4、4.5、4.7、4.5) 回収率 (63.3%) 科目 GPA1.90 学生の成績状況と授業評価から判断して、当該授業の学修到達度レベルに十分な授業ができたと言える。今後はさらに授業に工夫を加えて、より深いレベルまで理解できるようにする。
GA21204 建築学ゼミナール B	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	授業の性格上、個別指導となる。全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するともに、問題発見・解決方法の提案をディスカッション形式で行った。	授業の性格上、個別指導となる。全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するともに、問題発見・解決方法の提案をディスカッション形式で行った。
建築学特別研究 D	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	受講生がいないため、開講せず。	
A212013 福祉住環境学	高齢者、障害者の住環境整備について、福祉、医療、建築の3つの側面から修得することで、個別の住環境整備の事例に対して実践的な提案ができるようになります。 現在、高齢者・障害者のみならず、すべての者が安心して暮らせる生活環境の整備が重要になっており、そのような生活環境整備に係わるには、医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識と福祉用具や諸施策情報など、看護や保健など各種の専門職の内容についての知識も必要です。高齢者や障害者の住環境の整備に必要な医療・福祉・建築の知識について修得することが期待されます。	履修生数 55 名であった。履修生に対して、対面授業 15 回と定期試験(レポート試験)を実施した。課題及び定期試験はすべて UNIPA 提出とした。対面授業時間が 60 分のため、事前に資料を配布し、対面授業時には重要事項を説明し、復習課題として通常授業の場合は授業内で行う内容について各自で調べるなどの対応をとった。また、予習課題も自宅学習とした。履修生は、余裕をもって授業に臨む準備ができ、ある程度の知識を持ち授業を受講することができたと考える。また、授業時間が短縮されていたため、演習問題の○×問題は、授業後に回答を UNIPA で提示し、授業時に解説を行う等の対応をした。資格取得を希望する学生には別途対応し、受講生 1 名から受講期間中に福祉住環境コーディネーター2 級に合格したとの報告があった。	授業評価 4.57(4.7、4.4、4.5、4.7、4.7) 回収率 69.1% 科目 GPA2.27 (F 以外 2.27) 授業評価回収率は 69.1%と7割ほどであるため、授業評価は学生の評価を反映している。評価は 2019 年度より高くなっている。「シラバスに示されている達成目標をどの程度達成できましたか。」の項目が他の項目と比較し、低い評価となっている。医療・福祉・建築の幅広い知識と福祉用具や諸施策情報などに多くの事柄について学習するため、対面授業での質疑応答が不十分であったためと考えられる。学生意見により継続的に改善・対応するとともに、様々な知識をむすびつけるよう工夫したい。

<p>A212028 卒業研究Ⅱ</p>	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになることや、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることです。 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して進める授業です。卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの講読などから得られる知見を総合的にまとめあげることがを目的とします。</p>	<p>履修者数6名、各自が卒業研究のテーマを選択するため、適正な人数であった。遠隔授業希望学生もいたが、履修生は積極的に取り組んでくれた。 履修生によっては研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有するように心がけた。</p>	<p>授業評価4.90(5.0、4.8、4.8、5.0、5.0) 回収率66.7% 科目 GPA2.17 (F以外2.17)</p> <p>授業評価は高く、回収率を考慮すれば、十分に目標を達成することができた状況であると考えられる。研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。</p>
<p>GA21216 設計演習 B</p>	<p>各領域の実践的設計能力向上をめざす演習を通じて、諸問題に関する観察眼や分析力を適用する経験をし、建築の役割と責務に対する深い理解と使命感のもと、実践的職業人として社会造形上の問題発見から問題解決に至る行為を実践できる。 建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各領域の設計テーマについての演習を通じて、設計そのものの行為と設計に必要な知識や技能を獲得・向上させる行為とを有機的に接続しながら、実践的な設計能力の向上を図る。</p>	<p>履修生数2名であった。授業内容は5つのテーマの設計提案について考える演習とした。遠隔授業もあったが、履修生は積極的に取り組んでくれた。定期試験レポートは5つのテーマから1つを選択し、演習内課題をさらに詰める内容とした。履修生によりテーマが異なるため、各自のテーマに沿った指導を行った。また、テーマの異なる提案内容を見ることは履修生の勉強にもなるため全履修生で共有するように心がけた。</p>	<p>授業評価4.80(5.0、4.0、5.0、5.0、5.0) 回収率50.0% 科目 GPA4.00 (F以外4.00)</p> <p>授業評価は高い。設計提案が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。</p>
<p>A212003 基礎製図Ⅱ</p>	<p>建築の初学者が住宅や小店舗といった身近な事例の計画・設計を通して、建築を設計・製図することの楽しさを知り興味を深めることを目的としている。これにより2年次から本格化する建築設計や、さらには建築について学ぶこと自体へスムーズに移行できることを企図している。よって、以下のような教育効果を得られるものとしている。 ・建築図面の記号や表記方法を理解できる。 ・基本的な建築図面の読み書きができる。 ・基本的な住宅建築の設計・製図を行うことができる。</p>	<p>基礎製図Ⅱの発展的授業として、復習も兼ねた課題の実施ができた。身近な空間のスケールを把握し図面化する課題と、敷地の周辺環境も意識した建築計画をする課題の2つの課題を通して、授業目標に加え、スケール感、図面の描画力、プレゼンテーション能力の育成も行なった。</p>	<p>授業評価4.321 (4.5、4.1、4.1、4.2、4.4) 回収率73.3% 科目 GPA2.80 (F以外2.80)</p> <p>学生により、課題の理解度や進行の速さが異なったため、ひとりひとりの学生の進行状況や理解度を把握してできるよう、どちらかの課題ではエスキースタイルで毎週対面で進行状況の確認及び質問対応ができるようにする。</p>
<p>A212014 インテリア設計Ⅱ</p>	<p>商空間における必要な機能とエレメントについて理解できる。 既存の建物の条件を考慮して商空間のインテリア設計を考えることができる。 インテリアコーディネートした様々なエレメントを図面とプレゼンテーションボードにより表現することができる。</p>	<p>身近な空間の提案をすることで、その周辺環境の把握や、実体験に関係した需要を検討することができた。商空間に求められる機能を理解し、適切なエレメントの選定ができた。エレメントを図面とプレゼンテーションボードにより表現することができた。</p>	<p>授業評価4.773 (4.9、4.6、4.8、4.8、4.8) 回収率93.8% 科目 GPA2.38 (F以外2.38)</p> <p>学生により、図面の描画技術やプレゼンテーション能力が異なり、一部完成度が足りない学生もみられたため、試験作品提出前に事前提出日を設け学習到達度に差がつかないように対応する。</p>

A212031 卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。卒業研究を通して、建築分野での疑問を調査や分析を通して、自ら理解を深め、考察することができるようになる。設計を進めるものは、学生が興味・関心のある地域や用途について、調査・分析を行い、社会に貢献できる建築・インテリア設計ができるようになる。	学生自ら問題意識を持ち、自主的に責任をもって検討・実施できるように誘導した。研究室全体でそれぞれが進めている研究テーマから得られた情報を共有し、より広い興味と知識を得られるようにした。	授業評価 4.933 (5.0、4.7、5.0、5.0、5.0) 回収率 37.5% 科目 GPA3.63 (F 以外 3.63) 研究テーマをまとめることが困難な学生に対して、授業時間外も含め適宜個別ゼミを実施し、対応する。
GA20202 インテリア実務論	本講義の目標は以下の3点です。1) インテリア実務にける企画から設計までの要点を理解すること。2) インテリア空間の検討と決定までの知識を習得すること。3) 各種施設等の計画および意匠への反映手法・技法の実務を身に付けることを達成目標とした。	インテリアに対する社会的要求の高度化・多様化に対し、機能性・安全性・快適性等を備えた質の高いインテリアを日頃から考察し、住宅・オフィス・商業施設等の領域において、インテリアの計画・設計から工事監理までを行う専門的知識・教養を身に付けるように誘導した。	授業評価 4.900 (5.0、4.5、5.0、5.0、5.0) 回収率 66.7% 科目 GPA4.00 実務に近い知識と技術が習得できるように、インテリア実務にける企画から設計までの要点を理解するために視覚的に理解しやすい資料をもとに実施する。
GA21208 建築学ゼミナール B	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発をすることができる。	研究テーマに関連して、アンケート調査を中心に実施した。調査を通して、児童がいる家庭の遊び環境やインテリアエレメントの利用状況を把握することができた。	授業評価なし 科目 GPA4.00 主体性を養ってほしいため、研究の目的を達成するための手段として、自ら課題を見つけ、スケジュール管理も含め進められるように誘導する。
GA21224 建築学特別研究 D	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発をすることができる。	建築学特別研究 A～C までで蓄積してきた、既往研究調査、文献調査、アンケート調査を取りまとめ修士論文を完成することができた。学生が主体的に考え、進めていけるように指導をした。日本語の文献を理解し、読み終えるのに時間を要するため、授業時間外の対応をした。	授業評価なし 科目 GPA4.00 今後も適宜対応できるようにする。
A212006 インテリアデザインⅡ	様々な事例を通して、商空間における必要な機能やインテリアデザインの方法を理解することができる。商空間における人の寸法と空間の広さについて理解することができる。用途別商空間のインテリアデザインについて理解することができる。	履修者数 90 人、であった。1 コマ 60 分授業となっており、通常の 90 分授業の 2/3 の時間で運用した。数年前までは 2 コマ連続していた授業であったが近年 1 コマの授業に変更されたため、対面作業時間が 1/2 になっている。昨年度よりは学生を 2 つに分けて週ごとに交互に登校する規定が無くなったので授業の進みは良くなったが、通常時の 2/3 しか対面時間が確保されないため、いつもと同じ内容にするのは難しかったが、通常時よりも学生 1 人 1 人の質疑対応や個別指導を充実させる時間が取れた。そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。	授業評価 3.7 (4.3、4.1、4.2、4.2、4.3) 学生からすると対面授業時間が 90 分→60 分のため 2/3 になっており、より満足度を確保する策が必要だと考えられる。個別対応の時間を取るだけでなく、ビジュアルを増やす指導などをしていきたい。

<p>A212017 建築 CG</p>	<p>建築設計の現場では、様々なCAD・CGソフトが使用され、デザインの発想・検討、イメージの伝達に役立っています。今後もこうした傾向は強まり、より高度な建築CG表現が求められるものと考えられます。本授業では、これまでに学習した建築CADおよびCGの基本的な操作技術を踏まえた上で、社会において求められる高度な建築グラフィック表現を修得することを目的とします。</p>	<p>履修者数 3 限 27 人+4 限 14 人、であった。 1 コマ 60 分授業となっており、通常の 90 分授業の 2/3 の時間で運用した。数年前までは 2 コマ連続していた授業であったが近年 1 コマの授業に変更されたため、対面作業時間が 1/2 になっている。1 コマ授業が連続して 2 回あり、それぞれの受講者は異なる別の授業として運用した。昨年度よりは学生を 2 つに分けて週ごとに交互に登校する規定が無くなったので授業の進みは良くなったが、通常時の 2/3 しか対面時間が確保されないため、いつもと同じ内容にするのは難しかったが、1 クラス当たりの受講者数が 3 限：26 名、4 限：14 名と、そこまで多くなかったため通常時よりも学生 1 人 1 人の質疑対応や個別指導を充実させる時間が取れた。</p>	<p>授業評価 3.7 (4.5、4.2、4.2、4.1、4.3)</p> <p>学生からすると対面授業時間が 90 分→60 分のため 2/3 になっており、より満足度を確保する策が必要だと考えられる。個別対応の時間を取るだけでなく、ビジュアルを増やす指導などをしていきたい。</p>
<p>A212008 建築 CAD II</p>	<p>建築CAD・CGソフトの種類や用途、専門用語を理解することができる。 建築CAD・CGソフトによる 2 次元および 3 次元作図ができる。 建築CAD・CGソフトによって作図したデータを他のレイアウトソフトに活用できる。</p>	<p>1 コマ 60 分授業となっており、通常の 90 分授業の 2/3 の時間で運用した。数年前までは 2 コマ連続していた授業であったが近年 1 コマの授業に変更されたため、対面作業時間が 1/2 になっている。昨年度よりは学生を 2 つに分けて週ごとに交互に登校する規定が無くなったので授業の進みは良くなったが、通常時の 2/3 しか対面時間が確保されないため、いつもと同じ内容にするのは難しかったが、通常時よりも学生 1 人 1 人の質疑対応や個別指導を充実させる時間が取れた。そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。</p>	<p>授業評価 3.7 (4.5、4.2、4.4、4.3、4.4)</p> <p>学生からすると対面授業時間が 90 分→60 分のため 2/3 になっており、より満足度を確保する策が必要だと考えられる。個別対応の時間を取るだけでなく、ビジュアルを増やす指導などをしていきたい。</p>
<p>A212034 卒業研究 II</p>	<p>授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。</p>	<p>課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。 1 コマ 60 分授業となっており、登校対面授業と自宅学習を交互に運用した。 コロナ火禍で 100%の登校授業ができなかったが、そういうときこそ図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。</p>	<p>授業評価 3.7 (4.5、4.5、4.5、4.5、5.0)</p> <p>昨年・一昨年来を踏まえると、各過程をチェックし進行具合を把握するために今年のように登校は一つの起点として重要と考えられる。 また、達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業での会話は必要であると考えられる。 教員も学生側も、短縮授業ではあったが毎週対面で会話ができて、安心したのと考えられる。 来年以降も通常授業に戻っていくことを期待したい。</p>

A212002 住宅プランニング	住宅建築（主に戸建て住宅）の計画に関する専門用語を理解することができる。 住宅建築のプランニングがどのようなようになされているか理解することができる。 住宅建築のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。	教科書に沿った学習と、実践的なプランニングを半々ずつ織り交ぜることで、なるべく集中力を持続させながら取り組めるよう工夫を行った。	授業評価 4.300 (4.4、4.1、4.2、4.4、4.4) 回収率 69.4% 科目 GPA1.93 (F 以外 2.48) 本年度の反省点を踏まえて、より具体的な事例を交えるなどの授業改善を進めるほか、実際のプランニングに対する添削指導をさらに工夫したい。
A212004 建築ものづくり広場	自らものづくりを行うためにどのような、技術、道具があるのかについて理解できる。 自由な発想で、ものづくりを行うことができる。 ものづくりを行う上での安全配慮について理解できる。	半期にわたって3つのメニューを4週ごとにまわる形式のため、学生にとってもダレることなく取り組むことができた。	授業評価 4.403 (4.5、4.3、4.3、4.5、4.5) 回収率 69.7% 科目 GPA1.93 (F 以外 2.48) 本年度の反省点を踏まえて、他の担当教員とも連携しながら、より理解し取り組みやすい課題設定とするなどの授業改善を進めたい。
A212015 居住文化論	居住文化に関する専門用語を理解することができる。 居住文化を異なる時代や地域、社会のなかで多面的に理解することができる。 これからの居住文化の可能性と問題点について意見を述べるすることができる。	学生個々にとって身近な存在である住まいと住まい方を、さまざまな事例を通して紹介し、いまある当たり前がどのようにしてできてきたのか。どんな課題があるのかを具体的に示すことができた。	授業評価 4.553 (4.7、4.4、4.5、4.6、4.6) 回収率 66.7% 科目 GPA1.93 (F 以外 2.48) 本年度の反省点を踏まえて、より具体的な事例を交えるなどの授業改善を進めたい。
A212019 建築と経済	建築の生産、経済、積算に関する専門用語を理解することができる。 建築積算の基本的な仕組みと手順について理解することができる。 これからの建築や建築業について経済的な観点から意見を述べるすることができる。	建築経済に関連した内容として、ハウジング、建築生産、建築企画の3つをとりあげ、半期を大きく3つに分けることで、メリハリある学習をうながした。	授業評価 4.467 (4.6、4.4、4.5、4.5、4.4) 回収率 66.0% 科目 GPA1.93 (F 以外 2.48) 本年度の反省点を踏まえて、より具体的な事例を交えるなどの授業改善を進めたい。
A212022 建築法規	「建築法規の基礎」を習得の基本とし、建築士の資格取得のほか関連資格(宅地建物取引士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター等)にも対応できる知識の習得を目標とします。	建築法規の全体像を把握し、なぜそうした法規が必要なのか、どのような建築像、ひいては社会像の実現を目指しているのかを理解させたうえで、実際の法令の読み方を演習問題を通して取り組んでもらった。	授業評価 4.483 (4.5、4.4、4.5、4.5、4.5) 回収率 67.1% 科目 GPA1.93 (F 以外 2.48) 本年度の反省点を踏まえて、より具体的な事例を交えるなどの授業改善を進めたい。
A212029 卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	個々の問題関心や取り組み姿勢に応じて、課題設定、指導を進めることができた。	授業評価 4.360 (4.4、4.2、4.4、4.4、4.4) 回収率 62.5% 科目 GPA1.93 (F 以外 2.48) 本年度の反省点を踏まえて、より学生に応じた課題設定や指導を模索していく。また、個々の課題が異なることによる、履修者全体での連帯感が薄らがないように工夫を要するため、授業改善を進めたい。